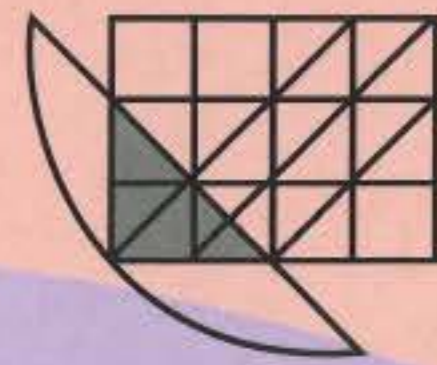


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.12

2007.3

世界遺産登録記念特別展

熊野本宮大社と熊野古道

平成19年(2007)10月6日(土)～11月25日(日)



重要文化財 熊野本宮大社社殿

特別展

文人墨客

—きのくにをめぐる—

平成19年(2007)4月28日(土)～6月10日(日)

重要文化財 虎溪三笑図襖 長沢芦雪筆 草堂寺蔵

特別展
文人墨客
—きのくにをめぐる—
4月28日(土)
～6月10日(日)

江戸時代、紀伊徳川家が支配した「きのくに」は、文化の一大拠点として、様々な文人を輩出し、また多くの墨客が訪れました。

きのくにを代表する文人である祇園南海や桑山玉洲は、全国的にもよく知られたため、池大雅や木村兼葭堂などの有名な文人たちも、彼らを訪ねてきのくにを目指しています。また、長沢芦雪は師である円山応挙の代わりに紀南の寺院を訪れ、多くの作品を描きました。このように、きのくにが多様な文人墨客を惹きつけた背景には、紀伊半島が海上交通の要所であった点や、那智滝や和歌浦などの名勝に恵まれていた点が挙げられます。さらに、文化に造詣の深い紀伊藩主が文人や陶工を呼び寄せた点も見逃せません。

この特別展では、主に江戸時代の中期以降に活躍した、きのくにゆかりの文人墨客を取り上げ、彼らの作品や交流を通して、輝かしいきのくにの文化をご紹介します。

【展示構成】

- I 偉大なる文人 祇園南海
- II 友を訪ねて
- III 旅と名勝へのあこがれ
- IV 芦雪 師匠の代わりに
- V 殿様が招いた陶工たち
- VI 船が運ぶ 人が運ぶ



松月図襖 円山応挙筆 重要文化財 草堂寺蔵



寒山拾得図 長沢芦雪筆 和歌山県指定文化財 高山寺蔵

芦雪も、
応挙も、
南海も



峰下鹿群図 祇園南海筆 個人蔵



和歌浦図巻 桑山玉洲筆 個人蔵



南紀男山焼 青磁樹下唐子文六角手焙
欽古堂亀祐作 個人蔵



山人閑適図 田能村竹田筆
(財)脇村奨学会蔵



紀州雑賀崎浦図 司馬江漢筆 個人蔵

館蔵品コーナー⑫

交趾釉月梅図皿 永楽保全作 野呂介石絵付

二枚 文政二年(一八二八)
高四・五cm 口径二一・〇cm

京都の陶工・西村善五郎保全(一七九五～一八五四)は、文政二〇年(一八二七年)、紀伊藩の一〇代藩主徳川治宝の命で和歌山へ招かれ、借楽園焼という御庭焼の指導にあたりました。その業績により治宝から「河濱支流」の金印と「永楽」の銀印を与えられ、以後、永楽保全と号するようになります。

この皿は、その永楽保全が作り、紀伊藩士で文人画家の野呂介石(一七四七～一八二八)が絵付けをしたものです。中国南部で焼かれた交趾焼を写した作品で、交趾焼特有の緑色や黄色の釉薬を用いて月と梅を描いています。皿の裏には、保全が治宝から拝領した「永楽」の印と、介石の「八十二瘦叟隆画」の銘があることから、介石八二歳の年にあたる文政二年(一八二八年)に作られたと分かります。介石は、この年の三月四日に亡くなっており、介石晩年の作品としても貴重です。なお、交趾とは現在のベトナム南部を指す地名ですが、実際には中国南部で作られた交趾焼が東南アジアの貿易を通じて日本にもたらされたので、この名がついたとされます。本場の交趾焼は茶席などで特に珍重され、永楽保全はそうした交趾焼の写しを得意としました。この作品は、特別展「文人墨客—きのくにをめぐる—」で展示する予定です。



世界遺産登録記念特別展

熊野本宮大社と 熊野古道

10月6日(土)～11月25日(日)

(熊野古道・藤白坂)

平安時代以来、皇族から庶民まで多くの人々を惹きつけた熊野参詣。その息吹は現在においても、いわゆる熊野古道に沿って残された「熊野九十九王子」の景観の中に見出すことができます。

この特別展は、紀伊路・中辺路を通じて熊野本宮に至った熊野参詣の全体像を、熊野本宮大社および熊野古道沿いに残された数多くの文化財をもとに明らかにするものです。この展示を通じて、改めて、熊野参詣とは何だったのか、そして、多くの苦難の末に辿り着いた聖地・本宮で、人々がどのような「光明」を見出したのかという、当時の人々の心性にも迫ってみたいと思います。



熊野本地仏曼荼羅
和歌山県指定文化財 熊野本宮大社蔵



阿弥陀如来坐像(熊野三所権現本地仏坐像のうち)
和歌山県指定文化財 藤白神社蔵



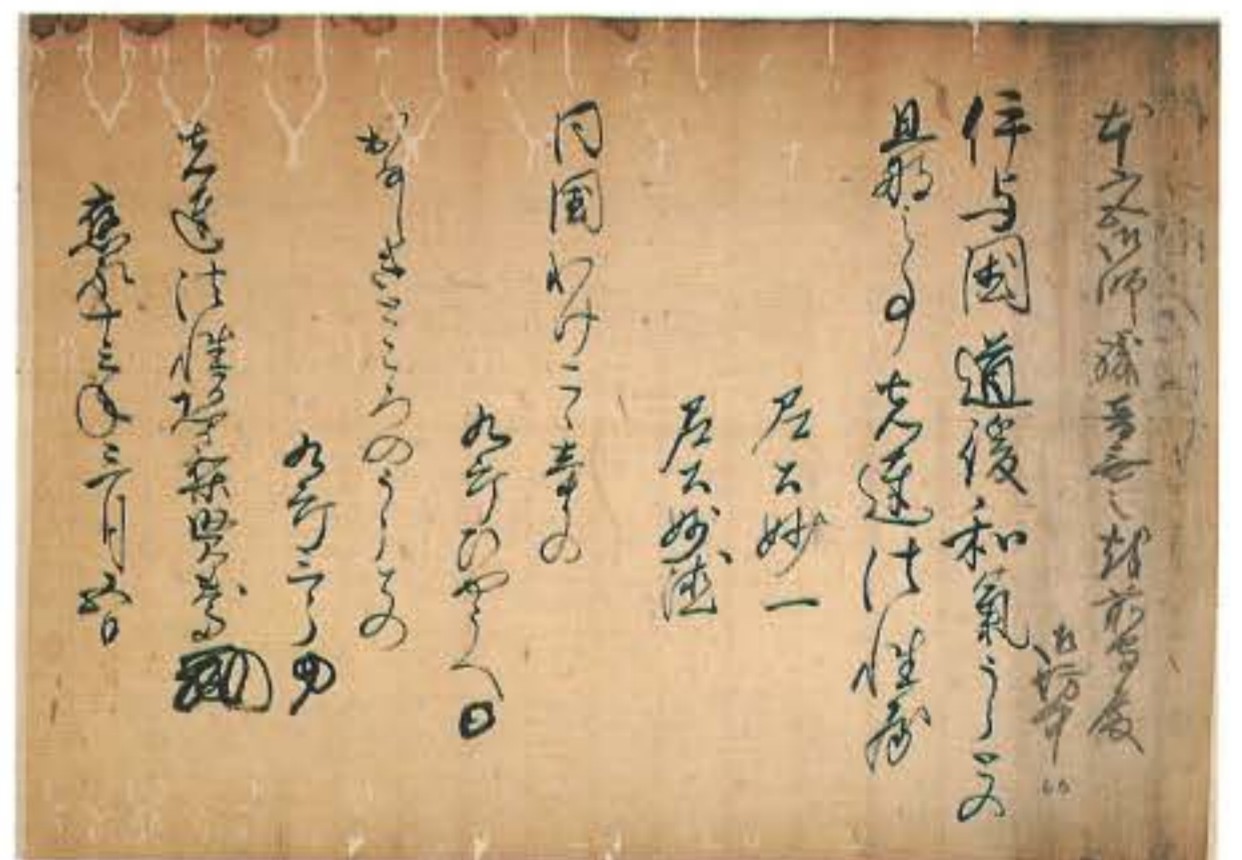
本宮本社末社図 熊野本宮大社蔵



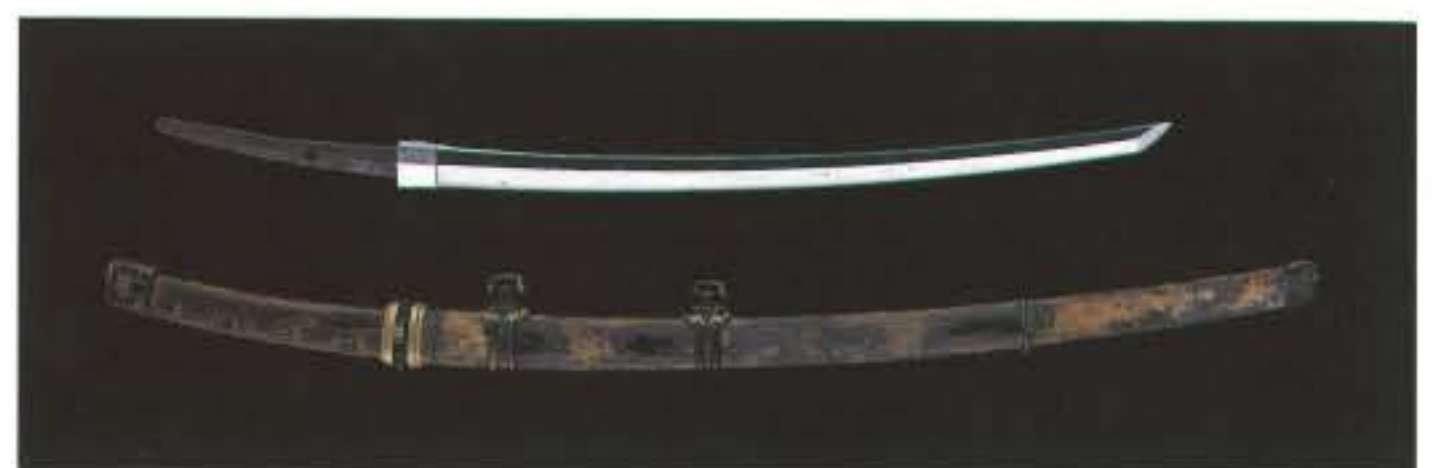
月光菩薩像(厨子扉絵)
和歌山県指定文化財 東光寺蔵



毘沙門天立像 東光寺蔵



檀那願文 熊野本宮大社蔵



黒漆小太刀 中身銘有次 重要文化財 滝尻王子宮十郷神社蔵

平成19年度の展覧会

常設展	きのくにの歩み	4月1日～9月28日 12月1日～3月30日	3万年にわたる、きのくに一和歌山県の人々の生活と文化について展示します。秋期特別展開催中は、常設展示室も特別展会場となりますので、ご注意ください。
企画展	きのくにの仏画 —仏の姿を守り伝える—	3月17日 ～4月22日	各地に信仰の拠点がある和歌山県では、優れた仏画も数多く残されてきました。絹や紙といった脆弱な素材でありながら、数百年の時を超えて守られてきた仏の姿から、人々の信仰の蓄積と、文化財を守ることを感じ取っていただきたいと思います。
特別展	文人墨客 —きのくにをめぐる—	4月28日 ～6月10日	江戸時代、文化の一大拠点であった「きのくに」は、多くの文人を輩出した地域です。また彼らを訪ねて、様々な墨客もきのくにを目指しました。この特別展では、主に江戸時代中期以降に活躍した、きのくにゆかりの文人墨客を取り上げ、彼らの作品やその交流を紹介します。
企画展	絵図をよむ	6月16日 ～7月16日	精密な測量に基づく現在の「地図」に対して、近代以前では絵画的要素の強い「絵図」が制作されました。特定の目的のために制作された絵図はデフォルメされることも多く、こうした絵図から描かれた意味を探ります。
企画展	地獄と極楽 —“あの世”のイメージ—	7月21日 ～8月19日	命あるものが避けることのできない「死」という現象。かつて人々は、死後の世界を“この世”から続く別の世界ととらえ、様々な“あの世”のイメージを造り上げてきました。お盆の時期に、地獄絵や浄土図などから、昔の人々が抱いた死生観を改めて考えてみたいと思います。
企画展	尊経閣叢刊 —レプリカの歴史と意味—	8月25日 ～9月24日	加賀・前田家の尊経閣文庫に伝わった古典籍を、天変地異によって失われることに備えて、四半世紀にわたり作られたレプリカ(複製)が尊経閣叢刊です。紀州に関わる資料を含め、県立博物館所蔵の一式を全て展示します。
特別展	熊野本宮大社と熊野古道	10月6日 ～11月25日	平安時代以来、皇族から庶民まで多くの人々を惹きつけた熊野参詣。多くの苦難の末にたどり着いた聖地・本宮で、人々はどのような「光明」を見出したのでしょうか。この特別展では、紀伊路・中辺路を通して熊野本宮に至った熊野参詣の全体像を、熊野本宮大社および熊野古道沿いに残された数多くの文化財をもとに明らかにします。
企画展	国宝・古神宝の美 —熊野速玉大社の神々—	12月8日 ～1月14日	熊野速玉大社には、神々へ奉納された約千点の古神宝類が伝えられており、全て国宝に指定されています。装束・武具・調度品など種類の多様に加え、文様の差に神々や奉納者の地位が反映されている点でも貴重な資料です。この企画展では、そうした古神宝の一部を展示し、その隠された魅力に迫ります。
企画展	きのくにのやきもの —御庭焼を中心に—	1月19日 ～2月11日	近世後期、和歌山では「借楽園焼」や「清寧軒焼」などの御庭焼が焼かれました。この展示では、当館のコレクションを中心にその優品を紹介します。同時に、こうした御庭焼を通じての人々の交流も紹介します。
企画展	高僧の姿 —きのくにゆかりの僧侶たち—	2月16日 ～3月16日	宗教が人々の生活に大きな影響を及ぼした前近代の社会において、僧侶は人々を救済する宗教家の一面だけでなく、学問を行う学者、文学・芸術に関わる知識人など、さまざまな側面も有していました。表された高僧の姿を通じて、きのくにゆかりの人物を紹介します。
企画展	根来寺の今と昔	3月22日 ～4月20日	覚鑑上人が現在の岩出市根来の地に寺院を建立して以来、根来寺は、衰退と復興を繰り返しながら現在に至るまでその法灯を受け継いできました。平成19年、国の史跡に指定された根来寺の現在へ至る変遷を、さまざまな資料から紹介します。

和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会

コレクション展 2007-春	4月17日～7月1日
大正デカダンス「夢二学校」+「テルヲ・パンカ」	4月17日～5月27日
竹久夢二展—描くことが生きること—	4月21日～5月27日
うるわしき技の世界 近現代美術の達人たち	6月2日～7月1日
ふだん美術	6月9日～7月16日
relations 関係 FUJIMOTO and	7月14日～9月24日
relations 関係 happy conceptual—杉山知子+藤本由紀夫—	7月14日～9月2日
コレクション展 2007-夏	7月24日～9月24日
水彩画の魅力	9月11日～10月8日
コレクション展 2007-秋	10月2日～12月2日
森のなかで	10月20日～12月9日
美術百科「色・いろいろ」の巻(前期)	12月22日～2月24日
美術百科「色・いろいろ」の巻(後期)	3月4日～4月6日

お知らせ

- 和歌山県立博物館と和歌山県立近代美術館は、和歌山城の南側、三年坂通りに面した同じ敷地内にあります。歴史と文化の香り漂うミュージアムゾーンにぜひ足をお運び下さい。
- 博物館では常設展・企画展・特別展の全てで、学芸員が解説するイヤホン式の音声ガイド機をご用意しています(一般200円、高校生以下100円)。常設展については上級コース、英語版も用意しています。
- 博物館のウェブサイトでは、展覧会の詳しい情報や、刊行書籍のリスト、県内の文化財に関する情報、学校行事や授業の一環で利用される方のための情報などを掲載しています。皆様のご利用をお待ち致しております。(http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/)

和歌山県立博物館友の会

—平成19年度会員募集のお知らせ—
県立博物館では、友の会会員を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。
●申し込み・問い合わせは、和歌山県立博物館友の会事務局までお願いします。
(TEL.073-436-8670)

交通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅からバスで県庁前下車、徒歩2分

〈文人墨客〉

〈常設展示も行っていきます〉

	一般	大学生
個人	500円	300円
団体	400円	250円

〈熊野本宮大社と熊野古道〉〈常設展示は行っていません〉

	一般	大学生
個人	800円	500円
団体	650円	400円

〈常設展・企画展〉

	一般	大学生
個人	260円	150円
団体	210円	120円

※高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生・就学生の方は無料です。企画展の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

入館料

※大型バスでご利用の場合はお問い合わせ下さい。	1時間まで	来館者
	100円	200円
以後30分ごと	100円	来館者以外
	100円	300円

駐車場

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)
年末年始および展示替え期間中は臨時に休館します。
詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。

博物館の利用案内

和歌山県立博物館 博物館だより 第12号
発行日 平成19年(2007)3月15日
編集 和歌山県立博物館
〒640-8137 和歌山市吹上二丁目4番14号
TEL(073)436-8670
http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp